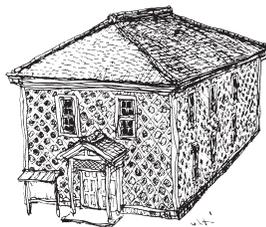


演説館



福澤先生とその門下生たちは、西洋のスピーチ、デベートを研究し、わが国の「演説」を創始しました。三田演説館は、明治8年に開館した日本最初の演説会堂です。

●塾長

清家

篤

新入生の皆さんへ

新入生の皆さん御入学おめでとうございます。慶應義塾では、学生を「塾生」と呼び慣わしています。皆さんは今日から、慶應義塾の塾生です。

塾生となった皆さんを慶應義塾を代表して歓迎します。これから一緒に学んで行きましょう。ここで一緒に学ぶということには、慶應義塾の場合、特別の意味があります。それは、慶應義塾の「半学半教」という伝統です。

明治4（1871）年の「慶應義塾中之約束」では、「此学科を学びて、彼学科を教る者は、一方より見れば生徒にして、一方より見れば教授方なり」と述べています。つまり塾生は得意なことを他の塾生に教え、一方では他の塾生からその得意なことを教えてもらうというように、教えてもらうだけではなく教える役割も果たすということです。そこでは、塾生同士、そして塾生と教員が自由に議論を交えられることが何よりも大切な条件となっています。

慶應義塾を創った福澤先生がこうした半学半教を強調した背

景には、学問に完成ということはなく、教員も生徒も共に学び、共に教え、互いに高め合う仲間だ、という考え方がありました。そしてさらにその背景には、多くの考えが互いに交換される「多事争論」こそが文明を進歩させる原動力であり、そのためには自由で平等な人間社会を作らなければならないという先生の信念がありました。

この伝統は、学生同士、そしてときには学生と教員とが互いに触発し合い、学び合う伝統として、今日の慶應義塾にも脈々と息づいています。慶應義塾はこの伝統をこれからも大切にしていきたいと考えています。

新入生の皆さんも、ぜひ積極的に授業や課外活動に参加し、互いに触発し合い、高め合ってください。そしてこの半学半教は、実は皆さんが卒業して今度は「塾員」と呼ばれるようになって、塾生、塾員、教職員の慶應義塾社中（慶應義塾のコミュニティ）での営みとして続いていきます。皆さんの入学はそうした長い慶應義塾での学びの出発点です。